

平成26年度 宇都宮市立岡本北小学校 学校評価書

※ 網掛けのない部分が評価計画、網掛けの部分が評価結果を受けて記入する。

1 教育目標（目指す児童像含む）

【基本目標】

個々の特性や能力を最大限に伸ばし、心身ともに健康で、創造性と実践力に富み、「知」「徳」「体」の調和のとれた、心豊かな児童を育成する。

【具体目標】

「健康で明るい子ども」「よく考えて判断できる子ども」「思いやりのある子ども」「ねばり強く進んで実践する子ども」

【子どものスローガン】

つよく やさしく かしい子

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

学校教育目標の具現化を目指して全教職員が一丸となり、創意と活力にあふれ、児童の心を動かす教育活動を展開するとともに、「安心して通うことのできる学校」「自分の力を発揮できる楽しい学校」「きまりを守り互いに尊重し合う学校」「保護者や地域から信頼される学校」を目指した学校づくりを推進する。

3 学校経営の方針（中期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

- (1) 健康で明るい子どもを育てる
 - 自らあいさつをしたり発言したりする態度の育成
 - ・ 発達の段階に応じた基本的な生活習慣の定着
 - 食の大切さについての意識の高揚と日常的な運動量の確保
 - ・ 命の大切さを感じさせ豊かな感性を磨く指導や体験的活動の充実
 - きまりの意義の理解促進と規範意識の高揚
- (2) よく考えて判断できる子どもを育てる
 - ・ 基礎的・基本的な知識や技能の確実な習得
 - 主体的な言語活動の充実による、思考力、判断力、表現力の向上
 - 適度な家庭学習等をととした、学ぶ習慣の定着と学習意欲の向上
 - ・ 教職員自身による心の変化の演示や、児童の心の状況の見取りなど、指導技量の向上
 - 互いに授業を見合い切磋琢磨し考え合える教職員集団づくりの推進
- (3) 思いやりのある子どもを育てる
 - ・ 児童の言動等へのきめ細かな対応と、教職員自身の言動に関する意識の高揚
 - ・ 命の大切さを感じさせ、危険への予知能力や判断力を身に付けさせる指導の充実
 - ・ 互いの意見や考えを尊重し合いながら切磋琢磨する雰囲気醸成
 - ・ 望ましい集団づくりの推進と、全校体制による、いじめ・不登校の予防、対応
 - ・ 弱い立場の児童の頑張りを認め褒め合う雰囲気づくりの推進
- (4) ねばり強く進んで実践する子どもを育てる
 - ・ 深い児童理解と、一人一人のよさが生きる教育活動の推進等による自尊感情の高揚
 - 児童自身が立てた目標を実現できる機会の充実
 - ・ 自力で困難を克服する経験を積ませることなどによる挑戦意欲の高揚
 - ・ 創意工夫しながら課題を解決する機会の充実等による、主体的な対応力の向上
 - 自分の将来を思い描いたり生き方について考えたりする機会の充実
- (5) 開かれた学校づくりを進め、地域に根ざした教育活動の推進に努める
 - ・ 家庭や地域との連携をととした、児童の健全育成を共に図る雰囲気醸成
 - ・ 学校公開や広報活動の充実等による、学校の教育活動への理解促進
 - ・ 地域の教育力を活用した教育活動の充実
 - 小中一貫教育に関する具体的取組の推進等、異校種との連携の強化

【古里地域学校園教育ビジョン】

児童生徒一人一人に、将来の夢や希望を持たせるとともに、「学ぶこと」、そして「心豊かにたくましく生きること」を自覚させ、社会的自立を目指す教育に小中が一貫して取り組む。

4 今年度の重点目標（短期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

【学校運営】

○児童一人一人のよさや可能性を伸ばし、困難に立ち向かうたくましい児童の育成

【学習指導】

・ 基礎・基本の定着と、言語活動の充実による思考力・判断力・表現力の育成

【児童生徒指導】

・ 自他を尊重し生き生きと自己表現できる児童の育成 ・ きまりを守り、互いに協力し合う児童の育成

【健康（保険安全・食育）・体力】

・ 自ら考え生き生きと運動に取り組む児童の育成 ・ 健康や安全を意識し、考えて行動する児童の育成

5 自己評価（評価項目のAは市共通、Bは学校独自を示す。）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

※「主な具体的な取組」の方向性には、A拡充 B継続 C縮小・廃止、を自己評価時に記入する。

項目	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評価
学校運営の状況	A1 学校は、活気があり、明るくいきいきとした雰囲気である。 【数値指標】 全体アンケートの「学校は、活気があり、明るく活気がある」⇒児童の肯定的回答 85%以上	①「つよく やさしく かしこい子」のスローガンの浸透を図り、児童会活動の充実など、活気のある学校づくりを進める。 ②学校生活を楽しく送れるように北小タイムや集会活動などにおける主体的な取組を重視し、その活性化を図る。	B B	【達成状況】 ◇児童の肯定的回答は 92.8%であり、指標の 85%を上回った。 ・①については、児童会活動で今年度新たに縦割り班活動を実施し異学年交流の場を設け、意欲的に取り組めた。 ・②については、北小タイムを活用して、持久走や委員会活動の発表など、工夫のある活動を展開することができた。 【次年度の方針】 ・①については、今後も継続を図り活気ある学校づくりに努めていく。 ・②については、活動内容を精選し児童の主体的な取組を重視しながら、その充実を図る。
	A2 教職員は、組織の一員として熱心に教育に当たっている。 【数値指標】 全体アンケートの「先生方は大切なところをしっかりと教え熱心に指導してくれる」⇒児童の肯定的回答 85%以上	①学校経営方針や学習指導要領の理解を深め、協働して教育活動に取り組む。 ②児童一人一人の状況を的確に把握・評価するとともに、話をよく聞き、声をかけ、よさを認め伸ばす指導を繰り返す。	B	【達成状況】 ◇児童の肯定的回答は 97.4%であり、指標の 85%を上回った。 ・①については、今年度の学校課題である家庭科の学習を中心に授業改善を図り、全職員で取組み、成果をあげた。 ・②については、児童の学習状況を適切に把握し、休み時間等を利用して個別指導にあたるなど、基礎・基本の定着を図ることができた。 【次年度の方針】 ・①については、今後も校内研修や研究授業等で教職員の指導力向上に努める。 ・②については、担任や少人数指導教員、かがやきルーム指導員等と連携を図りながら、児童一人一人の理解力向上に努める。
	A3 児童は、授業と生活のきまりやマナーを守り、秩序があり安全な学校生活をしている。 【数値指標】 全体のアンケートの「児童は授業と生活のきまりやマナーを守って生活している」⇒保護者の肯定的回答 80%以上	①「学習の約束」「生活の約束」を各教室に掲示する。約束の内容と意義を児童・保護者・職員が共有し、全職員・保護者が共通理解の下、指導に当たる。	B	【達成状況】 ◇保護者の肯定的回答は 89%で、指標の 80%を上回った。ただ、児童の肯定的回答は 79%であり、やや意識の乖離が見られる。 ・①については、「学習の約束」を教室に掲示したり、教職員で共通理解を図ったりしたことがよかった。 ・②については、生活目標を設定して教室に掲示をしたり、朝会で全校生に伝えたりすることで、意識付けを図ることができたのはよかった。

	②月に一度の生活指導部会で指導の重点を絞り、全職員で指導を繰り返す。	【次年度の方針】 ・①については、「学習や生活の約束」を4月の学級懇談会で知らせることで、家庭の協力を得られるようにする。 ・②については、生活当番日誌を作成したり、引継ぎの時間を位置付けたりすることで、より足並みをそろえた指導体制を確立できるようにしていく。
A 4 教職員は、分かる授業や児童にきめ細やかな指導を行い、学力向上を図っている。 【数値指標】 全体のアンケートの「教職員は、分かりやすい授業や一人一人へのきめ細かな指導をしている」 ⇒児童の肯定的回答 85%以上 保護者の肯定的回答 80%以上	①学習のねらいを明確にし、T・T、少人数指導、習熟度別学習等、個に応じた効果的な指導や支援体制を工夫する。 ②各教科等において、基礎的・基本的な知識や技能が確実に定着するように、教材教具や教育機器等を活用したり、授業の展開を工夫したりして、分かる魅力ある授業を実践する。	B 【達成状況】 ◇児童の肯定的回答は97.2%で指標の85%を上回った。また、保護者の肯定的回答は85.7%で、指標の80%を上回った。 ・①については、児童に、授業の始めに学習のねらいを明らかにし、終わりには振り返りを行うようにさせた。また、個に応じた指導もできるだけ工夫してきた。 ・②については、授業や朝の学習、宿題などで基礎・基本の定着を目指してきたが、学力調査の結果を見ると、必ずしも身に付いていないものがある。教具や機器、指導法の工夫などは鋭意行っている。 A 【次年度の方針】 ・①については、今後もT・T、少人数指導、習熟度別学習等の指導法について教職員間で共通理解を図り、一人一人に寄り添った効果的な指導の仕方を工夫する。 ・②については、基礎・基本の定着にさらに力を入れて指導する。誤りやすい学習をリストアップし、丁寧に繰り返し指導する。
A 5 教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。 【数値指標】 全体のアンケートの「教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している」⇒児童の肯定的回答 85%以上	①いじめはいかなる理由でも許されないことを、朝の会、帰りの会、道徳の時間、学級活動などを通して継続的に指導する。 ②いじめに関するアンケート調査、教育相談、いじめ対策委員会、ケース会議等を計画的にかつ必要に応じて実施し、いじめの早期発見・早期対応に努める。	A 【達成状況】 ◇児童の肯定的回答は97%で指標の85%を上回った。しかし、保護者の肯定的回答は71.2%、地域住民の肯定的回答は76.5%にとどまった。 ・①については、「いじめは絶対許さない、見逃さない」という全職員の共通理解のもと指導にあたったことが児童には伝わっていたが、保護者や地域住民には、学校の取組があまり伝わらなかった。 ・②については、組織的にいじめの早期発見・早期対応に努めたのがよかった。 【次年度の方針】 ・①については、今年度の取組を継続するとともに、取組内容について、お便りやHPで保護者や地域住民に伝える。 ・②については、いじめアンケートの回数をさらに増やすことで、いじめの早期発見・早期対応に努める。

A 6 日課、授業、学校行事などの教育課程は、適切に実施されている 【数値指標】 全体アンケートの「学校の日課・授業・行事などは適切に実施されている」⇒教職員・保護者の肯定的回答 80%以上	①PTA・地域諸団体との十分な調整を行いながら年間行事予定を作成するとともに、週案による時数管理、学校行事終了後の振り返りにより、次年度の教育課程の工夫改善を行う。	【達成状況】 ◇教職員の肯定的回答は100%,保護者96.4%であり、共に指標の80%を上回った。 ・事前に調整を図りながら行事を実施したり週案で授業時数の確認をしたりして、教育課程の適切な運用に努めることができた。 ・夏季休業日に3日間の授業日を設け、授業時数の確保を図った。 【次年度の方針】 ・次年度も授業時数の確保や行事の調整を行い、教育課程の効果的な運用の工夫を図る。 ・日課では、朝の打合せの時間の確保と水曜日の時程の改善を図る。
A 7 学校の公開や情報の積極的な発信・提供が行われ、開かれた学校づくりが進められている。 【数値指標】 全体アンケートの「学校は、学年便りや学校公開などで積極的に情報を発信・提供している」⇒保護者・地域住民の肯定的回答 80%以上	①年2回の学校公開土曜授業を、学校を知ってもらう機会として効果的に実施する。 ②学校・学年だよりや各種便りの定期的な発行と学校ホームページの定期的な発信に努めるとともに、伝える内容の精選と見やすく分かりやすい表現について工夫する。	【達成状況】 ◇保護者の肯定的回答は96.4%,地域住民は100%であり、共に指標の80%を上回った。 ・①については、9月と12月に学校公開土曜授業を実施し、保護者や地域の方に学校の情報を効果的に提供することができた。 ・②については、保護者、地域、自治会へ定期的に各種便りを発行し、学校の情報を積極的に発信してきた。また、学校HPの更新を継続して行うなど、内容の充実に努めた。 【次年度の方針】 ・①については、親学講座などに地域の人材を活用するなどし、学校公開の授業内容を工夫する。 ・②については、今後も各種便りと学校HPの定期的な発行や発信に努めるとともに、分かりやすい表現方法を工夫していく。
A 8 学校と家庭・地域・企業等との連携・協力を図った地域の学校づくりが推進されている。 【数値指標】 全体アンケートの「学校は、家庭、地域、企業等が連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている」⇒保護者・教職員の肯定的回答 80%以上	①地域人材や専門家派遣人材を活用した授業を各学年1回以上は実施する。 ②地域との連携事業(学校公開・地域協議会・安全対策連絡会・民生委員との情報交換等)を積極的に進める。	【達成状況】 ◇保護者の肯定的回答は88.3%,教職員は92.6%であり、共に指標の80%を上回った。 ・①については、各学年とも地域コーディネーター等と連携を図り、積極的に取り組んだ。 ・②については、学習指導・児童指導・安全指導などの教育活動を通して、地域との連携事業を進めることができた。 【次年度の方針】 ・①については、次年度も計画的に出前授業等が実施できるよう学習計画に位置付ける。 ・②については、PTA運営委員や地域コーディネーターと連携・協力しながら、学校運営の充実をさらに図る。
A 9 校内は、学習にふさわしい環境となっている。 【数値指標】 全体アンケートの「学校は、清掃が行き届き、荷物や備品などが整理整頓され、学習しや	①清掃の手順を明確にしたり、身の回りの整頓やごみを落とさない、落ちているごみは拾うなどの指導を学級活動で話し合ったりし、環境の美化に自主的に取り組める児童の育成に努める。	【達成状況】 ◇保護者の肯定的回答は92.9%で、指標の80%を大きく上回っている。 ・①については、各清掃場所ですら手順や清掃の反省が明文化されており、児童が見通しをもって清掃に取り組むことができた。

	すい環境である」⇒保護者の肯定的回答 80%以上	②清掃強化週間における働きかけや清掃コンクールの実施等をとおして児童への清掃への意識を高める。	・②については、美化委員会による清掃コンクールが効果的に実施され、児童の清掃をきちんとしようという意識を高められたことが環境美化につながった。 【次年度の方針】 ・①②については、児童が高い意識をもって取り組めているので、今後も継続して指導していく。 ・トイレや体育館清掃など、保護者や地域から指摘を受けている箇所については、より効果的な清掃の仕方を工夫する。
	B 1 「魅力ある学校づくり地域協議会」の経営参画を積極的に進めている。 【数値指標】 全体アンケートの「学校は、家庭、地域、企業等が連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている」⇒地域住民の肯定的回答 80%以上	①学校で課題となっていることを積極的に説明し、地域協議会の意見を反映するとともに、学校と地域が一体となって課題解決にあたる。	【達成状況】 ◇地域住民の肯定的回答は 90.5%であり、指標の 80%を上回った。 ・定期的に（年 4 回）地域協議会を開催し、学校側と率直な意見交換を行った。また地域協議会便りで、地域人材活用をした授業の様子や課題を積極的に発信することができた。 【次年度の方針】 ・地域協議会の目的や役割を明確にして、部会ごとに具体的な施策を話し合い、各人の役割が果たせるように工夫していく。
教育活動の状況	生 A 10 児童は、進んであいさつをしている。 活 【数値指標】 全体アンケートの「児童は時と場に応じたあいさつをしている」⇒児童と保護者の肯定的回答 80%以上	①児童・保護者・地域・教職員が協力して互いにあいさつをする習慣づくりを目指す。特に教職員は、率先してあいさつを繰り返す。 ②児童会によるあいさつ運動や、あいさつコンテストなど、あいさつに自ら取り組めるような、機会を多く設定する。	【達成状況】 ◇児童の肯定的回答は 77.6%で、指標の 80%を下回った。また、保護者の肯定的回答は 59.5%で、指標の 80%を大きく下回った。 ・①や②については、教職員が率先してあいさつをしたり、児童会によるあいさつ運動やあいさつ集会を実施したり、あいさつ認定証を渡したりするなどの努力を続けてきたが、十分な効果が見られなかった。 B 【次年度の方針】 ・①については、今年度以上に、教職員があいさつを率先して行い、見本を示す。また「〇〇さんにあったらこんにちは」などのキャッチフレーズを作り、全校生であいさつへの意識を高めていくようにする。 ・②については、特にあいさつ運動の取組では、イベント的な活動で終わるのではなく、どの児童もあいさつ運動の当事者になって主体的にかかわれるように工夫していく。

	A11 児童は、正しい言葉づかいをしている。 【数値指標】 全体アンケートの「児童は時と場に応じた言葉づかいをしている」⇒児童と保護者の肯定的回答 80%以上	①相手の立場や時と場に応じた正しい言葉づかいを発達段階に応じて具体的に示し、児童・保護者・地域住民・教職員の共有のもとで、よりよい言語環境へ向けて指導する。	【達成状況】 ◇児童の肯定的回答は 71.5%で、指標の 80%を下回った。また保護者の肯定的回答は 64%で、指標の 80%を大きく下回った。教職員、地域住民においても、昨年度に比べ肯定的回答は低かった。 ・気持ちのよい言葉づかいができるよう、言語環境を整えて指導を続けてきたが、十分な効果が見られなかった。 【次年度の方針】 ・時と場に応じた言葉遣いを具体的に示し、定着できるように継続して指導していく。 ・丁寧な言葉遣いができていないときには、どの学年においてもその場ですぐに具体的に指導するなど、教職員が足並みをそろえて指導に当たっていく。
	B2 児童は、互いに協力して活動している。 【数値指標】 独自アンケートの「児童は、学校行事や児童会活動、縦割り班活動などにおいて、協力して活動している。」⇒児童、教職員の肯定的回答 80%以上	①学級等において、日常的に協力することの大切さを指導するとともに、道徳の時間においても協力・協調の態度を育む指導を重点化する。 ②学級の係活動や児童会活動、学校行事等において、児童が協力して活動する場を意図的に設ける。	【達成状況】 ◇教職員の肯定的回答は 100%、児童の肯定的回答は 95.3%であり、指標の 80%を大きく上回った。 ・①については、各学級において協力して活動する機会を意図的に多く設けたのがよかった。 ・②については、本年度より新たに縦割り班の共遊の時間が設けられ、異学年児童が楽しく交流することができた。 【次年度の方針】 ・①については、今年度同様、協力して活動する機会を意図的に多く設けると共に、学校行事と関連付けながら道徳の指導内容の重点化を図り、一層力を入れて指導に当たっていく。 ・②については、縦割り班活動の時間を増やしたり、活動の様子がわかる掲示板を作ったりして、協調性が育まれるような環境を整えていく。
	健康・体 A12 児童は、<u>進んで運動する習慣を身に付けている。</u> 【数値指標】	①教科体育や体育的行事を生かし、児童に積極的に運動するよう働きかける。	【達成状況】 ◇児童の肯定的回答は 83.8%であり、指標の 80%を上回った。 ・①については、休み時間は基本的に外に出

カ	全体アンケートの「児童は、休み時間や放課後など、積極的に運動をしている」⇒児童の肯定的回答 80%以上	<u>②児童が、目標を決めて進んで取り組めるように、各種の検定やがんばりカードなどを工夫改善し、指導に生かす。</u>	るように共通理解を図ってきたが、教室に残って活動している児童も少なくなかった。 ・②については、水泳検定表や持久走がんばりカード、縄跳び検定表等の内容を児童の実態に応じて検討・改善したことで、児童にとって、よりやりがいのある内容となった。 【次年度の方針】 ・①については、教師と児童で再度共通理解を図り、体調の悪くない児童は外に出て遊ぶように指導する。また、来年度からロング昼休みが始まるので、その時間は委員会等の仕事をせず遊ぶ日にするなど、継続して外遊びができるように言葉かけをしていく。 ・②については、地域学校園との連携を図ると共に、今年度の改善内容を検証しながら、児童にとってより関心・意欲を高められるような各種検定の工夫改善に努める。
	A13 児童は、栄養のバランスを考えて食事している。 【数値指標】 全体アンケートの「児童は、好き嫌いをなく給食を食べている」⇒児童の肯定的回答 80%以上	<u>①学級懇談における話合いや食育だより等を通して、食育に対する関心を高め、食の大切さについて保護者への啓発を図る。</u> <u>②給食の偏食の多い児童に対しては、個別指導を実施し、状況に応じた指導を充実する。</u>	【達成状況】 ◇児童の肯定的回答は 76.1%で、指標の 80%を下回った。ただ、昨年度よりは 6%上回った。 ・①については、昨年度から家庭科の研究校として食育の指導を各学年で行ってきたこともあり、児童の食への関心を昨年よりは高めることができた。しかし、保護者の肯定的回答の割合はあまり高くないことから、学校と家庭との連携が十分ではなかったと言える。 ・②については、給食委員会による「好き嫌い調査」を実施したり、学校栄養士と担任が連携を図ったりしながら偏食指導を行ってきたが、個別指導の実施はできなかった。 【次年度の方針】 ・①については、食育だよりの充実を図ると共に、学習内容定着度調査のアンケート結果を学級懇談会で話題にするなどして、保護者への啓発を進めていく。 ・②については、担任と学校栄養士、家庭との連携を図り、個人懇談などで共通理解できるようにし、児童の偏食指導を行う。また、今年度同様に給食委員会の活動を充実させ、「嫌いなものでも、少しは食べよう！」と全児童に呼びかけをしていく。
	B3 児童は、進んで自分の健康づくりに取り組んでいる。 【数値指標】 独自アンケートの「自分	①う歯や近視等の疾病の予防や治療に取り組めるよう、保護者へ呼びかける。	【達成状況】 ◇児童の肯定的回答は 90.4%と、指標の 80%を上回った。 ・①については、定期健康診断後に個別に治療のお知らせをしたり、疾病予防の保健便り

	は、健康に気を付けて、規則正しい生活をしている。」⇒児童の肯定的回答 80%以上	②早寝早起きやテレビ・ゲームの時間など規則正しい生活の大切さについて、日常的に指導する。	を発行したりして、保護者への啓発を図ることができた。 ・②については、朝の会及び帰りの会、学級活動の中で適宜取り上げて指導を繰り返したこともあり、規則正しい生活を送っている児童が多い。就寝時間や起床時間なども全体的に良好であった。 【次年度の方針】 ・①、②共に、今後も継続してお便りや学年・学級懇談を中心に、健康な身体づくりや規則正しい生活の大切さを保護者に周知していく。
学 習	A14 児童は、進んで学習に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケートの「児童は、授業中に進んで話し合うなど、積極的に学習している」⇒児童の肯定的回答 80%以上	①魅力のある学習課題及び提示の仕方を工夫するとともに、「分かる」「できる」授業の展開や、一人一人への支援に努める。 ②児童が「話す」スキルを習得できるように、「話したい」テーマや場を設定したり経験の場を増やしたりするよう努める。	【達成状況】 ◇児童の肯定的回答は 88.1%で、指標の 80%を上回った。 ・①については、研究授業や互いに見せ合う授業などを通して、教員同士が学び合ったり協議したりして、授業の向上を図ることができた。 ・②については、言語活動の充実をテーマに掲げ、1分間スピーチや授業での「話し合う活動」に力を入れてきた。 B 【次年度の方針】 ・①については、「分かる」「できる」授業の展開を工夫し、児童が自信を持って主体的に学習に取り組めるようにする。 ・②については、学年に応じた「話し方マニュアル」を作成したり、グループやペアでの話し合いを意図的・効果的に取り入れ、自分の意見を積極的に発表できるようにしたりして、「話す」経験の場を増やしていく。
	A15 児童は、落ち着いて学習に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケートの「児童	①教科の特性に応じた指導の中にあっても、共通の「学習の約束」「話し方・聞き方」をもとに発達段階に応じた指導を全職員で継続して取り組む。	【達成状況】 ◇児童の肯定的回答は 81.2%で、指標の 80%を上回った。 B ・①については、「学習の約束」を全教室に掲示し、それをもとに学校全体で組織的に指導

	は、授業中に先生や友達の話をよく聞くなど、落ち着いて学習している」⇒児童の肯定的回答 80%以上	②特に中学年以上の児童には、多くの教職員が指導に当たれるよう、担任外教職員による授業や担任同士の授業交換等を進める。	してきた。特に、授業の始めと終わりの挨拶の習慣はどのクラスも身に付いた。 ・②については、多くの教職員が多面的に児童を見たり、教師の特性を生かして授業を行ったりと、児童の成長に役立つように努めている。 【次年度の方針】 ・①の「学習の約束」については、学期ごとに振り返りができる欄を設けて児童一人一人に渡し、より効果が上がるようにしていきたい。また、話をよく聞き、落ち着いて学習することは学力向上の大前提なので、今後も重点的に指導していく。 ・②については、今後でもできる範囲で担任外の教職員による授業や担任同士の授業交換等を進め、より多くの目で児童の学習指導及び児童指導にあたり、情報を共有する。
	<u>B4 家庭学習を続ける習慣が身についている。</u> 【数値指標】 独自アンケートの「児童は宿題や自主学習を決めた時間に行っている」⇒児童・保護者の肯定的回答 80%以上	①児童の実態に応じて、宿題及び学習の内容や分量を工夫し、家庭学習の習慣化を図る。 ②学年ごとに、「家庭学習のすすめ」に基づいた、家庭学習の内容と方法を具体的に示し指導する。 ③家庭学習の定着の意義や学校での指導内容を、学級懇談会や学年だより等で保護者に知らせ、理解や協力を得られるように努める。	【達成状況】 ◇児童の肯定的回答は 65.1%で、指標の 80%を大きく下回った。また、保護者の肯定的回答は 74.8%で、これも指標の 80%を下回った。 ・①②については、年度始めに古里地域学校園の「家庭学習のすすめ」を配付して、学習時間の目安や内容を保護者に知らせた。また、児童の実態に応じて宿題や自主学習の内容や分量を考慮したが、家庭学習の定着には至らなかった ・③については、学級懇談や個人懇談等を活用し、家庭学習の意義や現段階でのつまづき等を知らせ、充実した家庭学習への協力を得られるように学校体制で取り組んだ。 A 【次年度の方針】 ・①については、学年ごとに宿題や自主学習の実態を話し合い、学年に応じた適切な家庭学習を推進できるようにする。 ・②については、来年度も古里地域学校園の「家庭学習のすすめ」の共通理解を図り、家庭学習のやり方について分かりやすく児童に指導する。 ・③については、全国学力調査や学習内容定着度調査のアンケート結果などをもとに、家庭学習の現状を知らせると共に、家庭と連携してよりよい家庭学習ができる体制を整える。
本校の特	<u>B5 自分の考えをもち、進んで表現し、学び合える児童を育成する。</u> 【数値指標】	①児童が必要を感じたり、関心・意欲をもって取り組んだりできる言語活動の場を工夫する。	【達成状況】 ・児童の肯定的回答は 84.5%、教職員は 92.3%で、指標の 80%を上回った。 ・①については、例えば、調べたことを〇〇 B

色・課題等	独自アンケートの「児童は、思ったことや考えたこと、感じたことを、自分の言葉で表現している。」⇒児童、教職員の肯定的回答 80%以上	②授業中、児童が安心して自分の考えを話し合うことができる場面を意図的・計画的に設定する。	さんに伝えようとか、クイズ形式にして発表しようなどのように、児童が必要を感じたり意欲をもったりすることができるような活動を工夫してきた。 ・②については、安心して話せる雰囲気づくりに努めた。また、自分の考えを書けば、安心して話すことができるであろうという仮定のもと、児童が自分の考えを書いてから話すような場の設定を試みた。 【次年度の方針】 ・①②共に今年度の取組を継続するとともに、語彙を豊かにするために、読書活動をさらに推進したり、辞書を手に置いて細目に使ったりしていく活動を工夫する。
-------	---	--	---

〔総合的な評価〕

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

【学校運営】○「児童一人一人のよさや可能性を伸ばし、困難に立ち向かうたくましい児童の育成」について

○「学校は、活気があり明るくいきいきとした雰囲気である。」「教職員は組織の一員として熱心に教育に当たっている。」「日課、授業、学校行事などの教育課程は、適切に実施されている。」などの評価指標は、特別活動、校内研修の活性化や学校行事の精選などの取組が効果をあげ、十分に達成できた。

・「学校の公開や情報の積極的な発信・提供が行われ、開かれた学校づくりが進められている。」の評価指標は、年2回の学校公開授業の実施や各種便り、学校HPの積極的な発信などの取組が効果をあげ、達成できているが、さらに開かれた学校づくりの推進を図っていくことが必要である。

・「学校と家庭・地域・企業等との連携・協力」「魅力ある学校づくり地域協議会の経営参画」の評価指標では、出前授業や地域との連携事業などの取組により成果が認められるが、学校における具体的な取組を家庭や地域に発信すると共に、地域協議会のより効果的な運営を推進する。

【学習指導】「基礎・基本の定着と、言語活動の充実による思考力・判断力・表現力の育成」について

・基礎・基本の定着については、各種調査の結果をもとに全校体制で分析を進め、身に付いていない知識や技能を、児童の関心・意欲を高めながら繰り返し定着させていく。

○言語活動の充実については、各教科や領域の学習の中で、児童にテーマや課題を考えさせながら、発表や説明、話し合いを意図的に設定する学習を進めてきた。単なる暗記や計算処理などと異なり、児童の思考・判断・表現力を育てるための大切な学習形態なので、今後も継続して指導していく。

○宿題や自主学習の取組については、家庭学習の進め方を繰り返し児童に指導すると共に、学級懇談や個人懇談の場を活用し、家庭と連携しながらよりよい方法を工夫していく。

【児童指導】「自他を尊重し生き生きと自己表現できる児童の育成／きまりを守り、互いに協力し合う児童の育成」について

○「きまりやマナーを守って生活しているか」の評価指標については、約束を教室に掲示したり、教職員で共通理解を図って継続的に指導したりしたことが効果を上げた。今後はさらに家庭への協力をお願いしたり、生活当番日誌を作成したりすることで、より足並みをそろえた指導体制を確立できるようにしていく。

・いじめ対策の取組についての評価指標については、全職員の共通理解のもと指導にあたったことが効果を上げ、十分に達成できた。今後は、取組の様子を各種便りやHP等で積極的に家庭や地域に発信する。

○「時と場に応じたあいさつや言葉づかい」の評価指標については、達成状況が十分でないため、まずは、教職員が率先してあいさつをしたり、丁寧な言葉づかいを心がけたりしていく。あいさつ運動に関しては、どの児童もあいさつ運動の当事者になって主体的にかかわれるように工夫していく。

・「協力して活動しているか」についての評価指標については、縦割り班活動の取組が効果を上げ達成できているが、さらに、協調性が育みやすくなるような環境を一層整えていく必要がある。

【健康（保険安全・食育）・体力】「自ら考え生き生きと運動に取り組む児童の育成／健康や安全を意識し、考えて行動する児童の育成」について

○休み時間や放課後の運動に関する指標が昨年より低くなっていることから、自ら進んで外遊びをしたり、体を動かしたりする児童が増えるように、全校体制で支援をすると共に、児童にとって魅力のある各種検定の見直し等を進める。

○全体的に、保護者・児童ともに健康に対する意識が高く、非常によい結果といえる。唯一目標を下回った「栄養のバランスを考えた食事」についても改善傾向である。今後も、学校栄養士と連携を図り、児童が高い意識をもって生活できるように継続して指導する。

6 学校関係者評価

○学習支援ボランティアの活動について

- ・地域コーディネーターと地域連携教員が中心となって、よりスムーズな運営ができた。
- ・ボランティアとの連絡・調整の仕方が変わったことについて、事前に説明があるとよかった。

○いじめの早期発見・早期対応について

- ・「なんでも相談」を年に2回実施していること、いじめをなくそうと学校や児童会で取り組んでいることなどを、もっと保護者や地域にアピールするとよい。

○あいさつについて

- ・あいさつは、学校ではできても、学校を一步でると途端にできなくなるのが実態である。
- ・あいさつの指導を学校だけに任せるのではなく、保護者も積極的に教えるべきである。
- ・あいさつを推進する一方で、知らない人に声をかけられたらついていけない（不審者対応）という指導もあり難しい。
- ・交通指導員さんやボランティアの方には、少なくともあいさつをしてほしい。
- ・あいさつをする児童をもっと褒めるとよい。だれでも褒められれば嬉しいし、また自分からあいさつをしようと思うのではないか。
- ・地域協議会からあいさつを広めていけるとよい。（地域協議会から発信！）
- ・子ども同士であいさつの輪を広げていくとよい。（子どもから子どもへの発信！）
- ・なかなかあいさつをしなさいと言っても難しい。自然の流れに任せることもあるかもしれない。

○携帯電話の使用について

- ・小学生でどのくらい携帯電話を所持しているのか実態を知りたい。
- ・ラインなどの使用について、大人がもっとチェックすべきである。

○清掃について

- ・夏の奉仕活動の時に、除草だけではなく、トイレ清掃などをしてもらえるとよいのではないか。
- ・6年生の最後の授業参観時に校内の親子清掃活動を行っているが、地域協議会も参加してはどうか。
- ・大掃除の時などに、大人の手が入るとよい場所を、児童と一緒に地域協議会のメンバーで行うとよい。

○見守り隊について

- ・見守り隊は年々数が減っている。一方、子ども110番の家は増えている。
- ・見守り隊の方に「毎日やってください。」とお願いするわけにはいかないところが厳しい。
- ・朝のゴミ出しや夕方の散歩・買い物の時間を、児童の登下校の時間に合わせて行うとよい。

7 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

○「時と場に応じたあいさつ」「時と場に応じた言葉づかい」は、児童の肯定的回答が低くなっている。あいさつや正しい言葉づかいを身に付ける習慣づくりについて、地域住民や保護者との連携をさらに強化していくことが大切である。具体的には、地域学校園で設けている「あいさつ運動強化月間」等に、保護者や地域の参加を呼びかけたり、取組の様子を学校便りや学級懇談会などで積極的に取り上げたりしていく。

○いじめ防止に関する取組、地域ボランティアや出前授業を取り入れた授業の取組など、地域コーディネーターや地域連携教員を中心に積極的に実施してきたが、家庭や地域に伝わらないこともあった。今後は学校からのHPの更新、学校だより・学年だより・地域協議会だより・図書だより・保健だより・食育だより等の情報発信をより活性化し、児童の様子や教職員の取組などを地域住民や保護者に対し、これまで以上に分かりやすく紹介していく。

○宿題や自主学習の取組については、児童も保護者も肯定的回答の割合が数値指標に達しなかった。年度始めに配付している古里地域学校園の「家庭学習のすすめ」を児童にも保護者にも具体的に提示し、学習時間の目安や自主学習の進め方を繰り返し伝えていく。さらに、学級懇談や個人懇談の場で家庭学習についての話題を提供し、家庭と連携しながら、よりよい家庭学習の習慣を身に付けられるようにする。